

茨城県立こころの医療センター

STELLAR の導入で新旧システムのデータの一覧ができるようになり、各種文書の作成時間が短縮
直感的に操作できる画面のおかげで、ユーザも負担なく使用することが可能



第一医療局長 佐藤先生

導入経緯

病院情報システムの更新を機に 電子カルテと文書作成システムを一覧化

旧病院情報システムの使用が6年経過し、システム全体の更新が必要となりました。精神科は診断書や公的文書など大量の文書を作成するため、従来は文書作成システムで文書を作成/管理していましたが、こうした各種文書をカルテ記載や各種検査結果と統合的に一覧したいという要望があり、診療情報統合システムを導入することにいたしました。

新旧両システムのデータの統合と仮想化

こうした経緯から診療情報統合システムは新システムの電子カルテおよびすべての部門システムのデータはもとより、既存の電子カルテおよび文書作成システムのデータを取り込めることが必須条件でした。また、システム全体の仮想化を検討していたためサーバの仮想化に対応していることも必要でした。

すでに仮想化を進めていた病院をいくつか見学する中でアストロステージの評判を耳にしており、他社製品もいくつか検討しましたが基本的な仕様に大差なかったため、プロポーザル方式入札で決定した主契約者の提案であるアストロステージ社の製品をそのまま承ることとなりました。

導入効果

新旧システムのデータを一元管理でき 各種文書の作成時間が短縮

新しい電子カルテシステムのベンダーが当社製品に不慣れであったため連携ができるのか、また、運用フローが大幅に変更になったためユーザが理解できるかが心配でした。実際、運用開始直後から改善要望が多発し、連日その対応に追われることとなりました。ですが、問題の確認および改善案検討の場にベンダーが参加して積極的に改善案を提案していただき、翌日には要望した機能が実装されていたため1週間ほどでほとんどの問題は解決できました。

新旧両システムのほとんどすべてのデータを一元管理するため、診断書など各種文書作成の時間が短縮されました。また、『STELLAR』（診療情報統合システム）と同時に導入させていただいた『Ace Photo』（タブレット用医用撮影システム）も使い勝手がよく、心理テストの結果などをまとめて管理するのに一役買ってくれています。アストロステージの製品は、マニュアルを見なくても画面を見るだけでおおよその操作方法の見当がつくため、ユーザの教育に時間が割かれずに済むというメリットも持ち合わせていました。

ただ、旧システムからのデータの取り込みがうまくいかないことがあり、システムを使用するのに少々困られることもありましたが、トラブルに対する対応も早く真摯に事に取り組んでいただけたので、今後の改善に期待したいと思います。



医事課 芳賀氏 / 第一医療局長 佐藤先生



茨城県立こころの医療センター：システム導入時期 / Oct 2017



県内唯一の公立精神科病院です。精神科救急・児童思春期・医療観察法などといった各種政策医療、県内外の看護学生を初めとした各種医療系学生や研修医に対する教育研修、周辺市町村へのアウトリーチ活動と人材育成、など多岐にわたる役割を担っています。また、総合病院、小児専門病院といったほかの県立病院との連携も行っていきます。

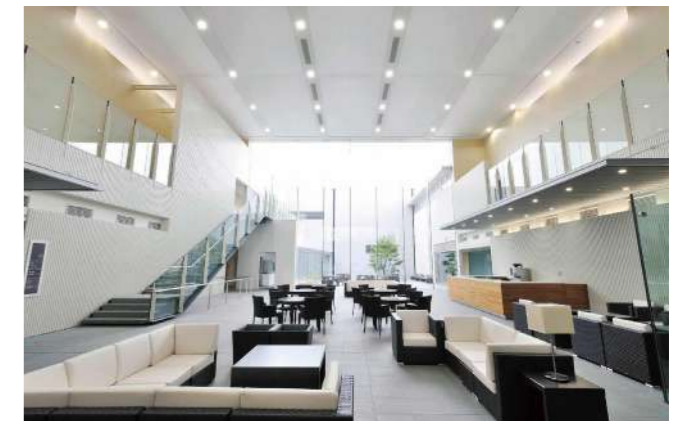
所在地：茨城県笠間市旭町 654
病床数：276床
(スーパージュニア+床、一般救急床、児童思春期床、医療観察法床、その他床+床)
診療科：精神科

今後の方針

病診連携・病病連携を初めとした地域連携を進めており、患者の個人情報を守りつつ情報の交換・共有を進めていきたいと考えております。

今後の期待・要望

システムとして軽微な不具合が発生することがあります。トラブルに対するフォローは手厚くしていただいておりますので、継続的に対応していただきたいと思います。



茨城県立こころの医療センター正面ロビー

システム構成図

